

2023 年度 清教学園中・高等学校 学校評価

1. めざす学校像

「神なき教育は知恵ある悪魔をつくり、神ある教育は愛ある知恵に人を導く」という建学の精神のもと、「一人ひとりの賜物を生かす」ことのできる質の高い人間教育を行うことを目指す。

清教学園の目指す人間像

- ①神を信じ誠実に仕える
- ②真理を学び賜物を生かす
- ③隣人と共に平和を築く

2. 中期的目標：

教育の質的向上 ～清教「らしさ」・清教メソッドの確立、および運営の質的向上 ～

1 教育の質的向上

- (1) 学力伸張を図る
- (2) 社会自立・自己実現に向けた夢を育て、志を形成する
- (3) 高い倫理観と Servant Leadership を育成する * Servant Leadership : 「リーダーである人は、まず相手に奉仕し、その後、相手を導くものである」という考え

2 生徒における学校生活の充実

- (1) 特別活動の充実
- (2) 生徒指導の充実
- (3) 生徒支援

3 環境整備力の向上

- (1) 施設の充実
- (2) 外部環境への対応
- (3) 情報の共有化と発信力の促進

3. 学校評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見

学校評価アンケートの結果と分析 [2024 年 3 月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p><評価結果の高い項目：各5つ> ※ 数値は AB の回答率 (%)</p> <p style="text-align: center;">[*A を最良とする ABCD の 4 段階評価]</p> <p>【中学生】</p> <p>「社会（地歴・公民）」には学力向上につながる授業が多い 99.1 姉妹校などによる交流や語学研修・留学制度も充実し、グローバルな視点が養えている 98.2</p> <p>「英語」には学力向上につながる授業が多い 97.3 生徒が問題行動を起こした時に、きちんと対応している 96.4 熱心に指導してくれる教員が多い 95.5</p> <p>【高校生】</p> <p>生徒は充実した学園生活を送っている 94.4 姉妹校などによる交流や語学研修・留学制度も充実し、グローバルな視点が養えている 93.8</p> <p>宗教・人権教育が重要視されている 90.7 学校行事は生徒が積極的に参加できるよう工夫されている 90.7 「数学」には学力向上につながる授業が多い 90.1</p> <p>【中学保護者】</p> <p>姉妹校などによる交流や語学研修・留学制度も充実し、グローバルな視点が養えている 98.7</p> <p>宗教・人権教育が重要視されている 97.3 学校行事は生徒が積極的に参加できるよう工夫されている 97.3 熱心に指導してくれる教員が多い 97.3 PTA 活動が盛んである 97.3</p> <p>【高校保護者】</p> <p>PTA 活動が盛んである 96.3 生徒は充実した学園生活を送っている 96.0 規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がされている 96.0 学校行事は生徒が積極的に参加できるよう工夫されている 95.2 プロジェクト等、教室の ICT 環境は学習理解を深める 95.2</p> <p>【教職員】</p> <p>PTA 活動が盛んである 100.0 いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる 100.0 熱心に指導してくれる教員が多い 100.0 生徒が問題行動を起こした時に、きちんと対応している 100.0 悩みや相談に親身になってくれる教員がいる 100.0</p>	<p>2024（令和 6）年 3 月 30 日に 2023（令和 5）年度の学校関係者評価委員会を開催した。この学校関係者評価委員会は、保護者会関係者、地域居住者、および学園評議員によって構成されている。なお、評議員の選定については、寄附行為に基づき、学識経験者、学園卒業生、および学園教職員の 3 つの枠を設けた上で行われている。</p> <p>【保護者会関係者からの意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートとして 35 問、かつ各設問に自由記述欄もあるというのは、設問数として多いのではないかと。忙しい中でアンケートに対応する形である方も多いため、半分ほどの設問数に減らし、10 分くらいで回答が終了できる形にして、回答率をもっと上げるようにするのが望ましいのではないかと。 → お忙しい中をアンケートにご協力いただき、感謝を申し上げます。生徒たちのために学校の教育活動や運営をより良いものにしていくアンケートとなるよう、専門家にも協力をいただきながら、工夫を図っていくようにしたい。 <p>【地域居住者からの意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害対策に関する評価は改善すべきである。 → 昨今の災害激甚化を踏まえ、生徒たちの安全安心の確保については徹底して臨んでいく。また、本校が地域における協定避難所になっていることから、官公庁から出される指針等にも適う備えを心掛けていきたい。今年度実施した正門エリアのリニューアル工事では防災ベンチの設置も行なったところであり、生徒たちへの防災教育という意味でも災害避難への準備という意味でもさらなる対応を進めさせていただいた。今後も近隣の方々による温かなお気持ちでのお見守りをお願いしたい。 <p>【学識経験者からの意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科によって評価結果にバラツキが出ている理由の一つに、問いの形式が必ずしも良いものと言えない状態になっていることが挙げられるように思われる。問い方を見直すべきである。教科教育に関する生徒たちの充実感を的確に把握し、ステップアップのための指標を見えるようにしていくためにも「良いところを 3 つ挙げられるか」などの問い方に変えていくのも有効であろう。また、生徒における満足度の内実をより良い形で確かめるためには Closed Question ではなく「どこが足りていないか」を尋ねる問い方もありうる。本来は学年やクラスといったグループ間での相関性も分かるのが望ましい。 → 2008 年度に学校評価制度が義務化されて以降、経年変化を見ていくのが望ましいだろうということから、問いの内容には大きな変化を加えずに進めてきた。アンケートの分析結果を今後の教育活動に適切に生かしていくという意味では、学術的に信頼性の高い手法を取り入れ、問いの仕方について見直しを進めていくように図りたい。今回指摘された教科教育に関しては、生徒たちの学びにとって重要な指標を得ることにつながるため、次年度の学校評価に向けて検討していくものとする。

<p><評価結果の低い項目：各5つ> ※ 数値はABの回答率〔%〕</p> <p style="text-align: center;">[*Aを最良とするABCDの4段階評価]</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・小論文の個別指導など、教員の手が回り切らないことについては単なる教員増でなく、学外の力を借りるといった手段も講じて、教職員の「働き方」に関する工夫を行うことも必要であろう。 → 大学入試の多様化に伴って生徒たちにとって必要な「学力」の増進も個別最適化をめざした仕方を取り入れるべき段階になっている。そうした意味では、小論文指導のような内容的に多様であり、指導の場面は個別対応を要するものについては、生徒にとって密度の濃い形で学べる状態を学校全体で準備していくことが重要になっている。教職員の日常の働きが常に良い状態でなされるためにも、「学力」の増進にめぐる社会変化を踏まえて、いただいたご意見を生かしていきたい。 ・塾に通わなくても学力がつくということに関する評価の伸びを求めたいところである。状況改善には、教員によるのみではなく、生徒どうしでの学び合いに関する学内カルチャーも必要ではないか。先にあげられた学外の力を借りることに加えて検討をしてもらいたい。学園生徒たちの学びの姿勢や力量・資質ならば、できるのではないか。 → 学園生徒たちのポテンシャルを高く評価いただいていることに感謝したい。数年来のアクティブラーニングの実践をさらに進化させて、いただいた助言を生かしていきたい。協働学習の成果については既にSGHネットワークでの研究発表の機会等を通じて広く知っていただいている状態であるが、生徒たちがこうした場面で輝かせる賜物の貴さを学園として大切に続けていく。
<p>【中学生】</p> <p>進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている 74.1</p> <p>塾・予備校に行かなくても学校の勉強（授業や補習等）で十分な学力がつく 79.5</p> <p>将来、学びたい学問などをイメージするための情報が提供されている 80.4</p> <p>部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている 82.1</p> <p>自習室・ラーニングコモンズは利用しやすい 83.0</p>		
<p>【高校生】</p> <p>部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている 58.6</p> <p>塾・予備校に行かなくても学校の勉強（授業や補習等）で十分な学力がつく 61.1</p> <p>トイレ設備が整備されている 64.8</p> <p>知り合いや後輩に学園への入学を勧める 66.7</p> <p>将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている 70.4</p>		
<p>【中学保護者】</p> <p>食堂（パンおよびテイクアウトを含む）は利用しやすい 64.7</p> <p>塾・予備校に行かなくても学校の勉強（授業や補習等）で十分な学力がつく 75.3</p> <p>進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている 80.0</p> <p>部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている 80.0</p> <p>将来、学びたい学問などをイメージするための情報が提供されている 80.0</p>		
<p>【高校保護者】</p> <p>塾・予備校に行かなくても学校の勉強（授業や補習等）で十分な学力がつく 68.4</p> <p>授業の理解が不十分な時に、面倒をよく見てくれる 70.2</p> <p>部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている 73.2</p> <p>食堂（パンおよびテイクアウトを含む）は利用しやすい 80.5</p> <p>進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている 82.7</p>		
<p>【教職員】</p> <p>部活動は勉強の時間が確保できるよう配慮されている 59.5</p> <p>災害や不審者から生徒の身を守ることができるように配慮している 73.8</p> <p>規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がされている 83.3</p> <p>個人情報端末は学習理解を深める 83.3</p> <p>将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている 85.7</p>		
<p><全体総括></p> <p>海外研修や留学生等の受け入れが本格的に再開された中、生徒たちにおいては中高ともグローバル教育に関する充実度が格段に高まった年度となった。そのほかの学校行事も概ねコロナ禍以前の内容で実施されたが、中高とも保護者に生徒たちの成長を実感いただけたという結果を残すことができた。他方、公式戦やコンクールが元通りに実施されるようになったこともあり、勉学と部活動とのバランスについては改めて課題事項として出てきた年度ともなった。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 【学園卒業生からの意見等】 ・部活動のバランスについては二極化の様相を呈するようになっており、注視していく必要があるだろう。社会的な現状からして、部活動については縮小ぎみにしていくのがやむをえないところもあるが、学園の特色の一つである「勉学と（部活動を含む）課外活動との両立」というスタンスは継続されたい。とりわけ部活動との両立ということへの評価が今回も安定していないため、バランスの改善という課題に引き続き向き合うことが重要であると思われる。 → 学園として部活動方針の形で表現した在るべき姿を守り、「バランスのとれた進学校」というこれまでの歩みを確保・向上させていくように心がけたい。「学園のめざす人間像」を質的に高いレベルで生徒たちが具現化していくことができるように、日々の教育活動のさらなる良質化に教職員全員で努めていく。 ・トイレ改修工事を複数年にわたり積極的に進め、学校環境の充実度が増してきていると思われるが、高校生における評価の高まりが相応していなかった。さらにどんな工夫が必要か。 → 今年度も国庫補助金の活用をさせていただき、トイレ2ヵ所において最新設備の導入を進めさせていただいた。高校生における評価が大きく高まらなかった理由としては、高校ゾーンの全体にわたっての改修までには至っておらず、場所ごとにトイレの質に差異が生じているということが影響している模様である。学校全体の環境整備・質向上を計画的に進めていくことができるよう、ますます努めていきたい。 ・高校生においても宗教教育に関する評価数値が上がっているのは喜ばしい。 → 合同礼拝や宗教週間をしっかりと守ることができており、そうした機会をキリスト教に触れる時間として実感してもらえていると思われる。努力を継続したい。 ・回答率を上げるためにはホームルーム教室でアンケートを実施するといった仕方が良いのではないか。

4. 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教育の質的向上	<p>(1) 学園の教育理念への十分な理解に基づく学業生活の推進</p> <p>(2) 学力向上をもたらす学習指導の工夫および生徒の自主的な学習姿勢の育成</p> <p>(3) キャリア教育の拡充を含む進路指導の充実化</p>	<p>ア. 礼拝への積極的な参加を促すことをはじめ、こころの教育のさらなる充実を図り、宗教・人権教育が重要視されていることが十分に理解されるように努める。</p> <p>イ. バランスの取れた教育活動を通じて、生徒の自律・自立を促し、自己肯定感を高める取り組みを推進する。</p> <p>ウ. グローバルリーダー育成のプログラムをさらに積極化・多様化させ、生徒において国際交流活動が身近なものだとさらに認識されるように図る。</p> <p>エ. ICT等の積極的な活用をはじめ、生徒における授業内容の理解を促すような工夫を継続する。</p> <p>オ. 個々の生徒における学習到達状況を把握し、各人の学習意欲を受けとめられるような丁寧な指導に努める。</p> <p>カ. 生徒の自主的な学習姿勢および課題発見・解決力を育成するために図書館教育の機能をさらに有効化させる。</p> <p>キ. 将来つきたい職業のイメージを喚起できるような機会を増やし、進路に関して明確な夢・目標が持てる指導を図る。</p>	<p>学校評価アンケートにおける結果を分析することを通じて評価するのを基本とする。</p> <p>ア. 建学の精神に関する理解、及び宗教・人権教育が重要視されているかに関する評価結果が、どの評価対象枠においても80%以上</p> <p>イ. 生徒が充実した学園生活を送っているかに関する評価結果がどの評価対象枠においても80%以上</p> <p>ウ. 姉妹校による交流や語学研修・留学制度が充実しているかに関する評価結果がどの評価対象枠においても80%以上</p> <p>エ. 学力向上につながる授業が多い(主要5教科平均)およびプロジェクト等、教室のICT環境は学習理解を深めるの評価結果がどの生徒においても80%以上</p> <p>オ. 「塾・予備校に行かなくても学校の勉強で十分な学力がつく」「理解が不十分なきに面倒をよく見てくれる」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上</p> <p>カ. 「図書館教育は知的関心を高めるのに役立っている」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上</p> <p>キ. 「将来、働きたい仕事などをイメージするための情報が提供されている」「将来、学びたい学問などをイメージするための情報が提供されている」「進路に関して明確な夢・目標が持てる指導がされている」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上</p>	<p>□教育理念・独自性</p> <p>「建学の精神」および「愛校心」に関しては、多くの生徒・保護者において評価は概ね好評です。キリスト教に基づく「心の教育」については、教員においても充実度が高まっており、本校の教育理念を生徒・保護者に理解してもらうための状況をより良いものにしていくと捉えられます。ただし、高校生においては、幾分か改善傾向があるとはいえ、前年度アンケートの結果と同様、「知り合いや後輩に学園への入学を勧める」に関して評価が高くはありません。今後の改善に向け、教育活動の基本姿勢をめぐり、入学時の期待度に合ったような納得感を得ているのか、改めて生徒への状況確認を図ります。</p> <p>□特別活動</p> <p>コロナ禍の影響が少なくなって行事等の実施が概ね従来通りにできるようになったことから、特別活動に関しては概ね評価が高まっています。ただ、高校生では、これまで同様、「部活動は勉強の時間が確保できるように配慮されている」に関して評価が高くない状況が続いています。「学業第一」の大原則のもと部活動ガイドラインを遵守した活動となるよう配慮を重ねていますが、勉強での充実度をきちんと持ってもらうながら部活動を楽しんでもらえるような工夫をさらに図ります。他方、本格再開した国際交流・グローバル活動では、学びの機会が増えるに伴って、評価結果も向上しました。</p> <p>□学習指導と進路指導</p> <p>「教科教育」および「学習指導」に関しては、中高ともに、強い不満が感じられている科目は概ねなく、日頃の授業に関しては熱心に指導が進められていると考えられます。ただ、高校生においては、前年度に続き、「学校の勉強」のみで「十分な学力がつく」という点で評価が高くはない結果となりました。多様な学びが求められると同時に、大学受験での緊張感も高い高校生に対して、授業や補講の大切さをいっそう実感してもらえるよう、さらに努力を重ねていきます。また、進路指導では、「将来、学びたい学問」や「将来、働きたい仕事」に関する指導については概ね良好な評価がある一方で、「明確な夢・目標が持てる」という点については課題が残っています。生徒に高い志と人生への情熱を抱いてもらえるよう、日ごろの指導内容をさらに充実させていくことに努めます。</p>

<p>2 生徒における学校生活の充実</p>	<p>(1) リーダーシップの育成にも資する特別活動の充実化</p> <p>(2) 社会性の高まるような生徒指導の充実化</p> <p>(3) 生徒が安心して学校生活がおくれるような生徒支援の推進</p>	<p>ア. 生徒が主体となって参加・運営する学校行事のあり方を追求していく。</p> <p>イ. 勉学と課外活動の両立を謳う本校においてはとくに、両者のバランスがきちんと確立されているということが求められており、学内外の関係者において納得してもらえる状況を作っていくのが重要である。</p> <p>ウ. 規則遵守の促進、美化意識の向上、いじめのない学校作りへの取り組みを通じて、学校生活における基本的環境を整えられるように図る。</p> <p>エ. 学校生活の基盤たる健康の促進を図るべく、生徒における健康意識の醸成に努める。</p> <p>オ. 生徒のメンタルヘルスの維持のため、親身になって対応にあたるように努める。それにあたっては、専門家との連携も進め、カウンセリングマインドの醸成をさらに図りたい。</p>	<p>ア. 「学校行事は生徒が積極的に参加できるように工夫されているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても 80%以上</p> <p>イ. 「部活動は勉強時間が確保できるように配慮されているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においては、80%以上</p> <p>ウ. 「規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がされているか」・「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」・「生徒が問題行動を起こしたときにきちんと対応している」に関する評価結果の平均値がすべての評価対象者枠において 80%以上</p> <p>エ. 「保健教育を通して健康管理の大切さについて意識を高める指導がされているか」に関する評価結果はどの評価対象者枠においても 80%以上</p> <p>オ. 「悩みや相談に親身になってくれる教員がいるか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても 80%以上</p>	<p>□生活関係・生徒支援</p> <p>生活関係の事項については、一人ひとりの生徒に寄り添う基本姿勢を大切にしており、評価結果を見るに、概ねその姿勢を理解いただいていると捉えられます。また、コロナ禍の影響がほぼなくなり行事も概ねすべて実施できるようになりましたが、安心・安全の確保をしながら積極的な学びの機会となる工夫をこらすことによって、中高の生徒たちのみならず、中高いずれの保護者からも「学校行事は生徒が積極的に参加できるように工夫されているか」について 95%を超える高評価をいただいています。そのほか、いつも高評価をいただく図書館教育のほか、頻度の増した国際教育や自習室活用でも、評価が高くなりました。今後も、生徒たちの学校生活の彩りを豊かにする工夫を重ねていきます。</p> <p>生徒たちの心身の健康に配慮し、安心感をもって学校生活を送ってもらえるよう、本校では 10 年余にわたりスクールカウンセラーが常駐する支援体制を確保していますが、そうした手厚さにより、生徒たちの日々の変化に早く気づきケアできる教育運営を図っています。健康管理・心のケアに関する生徒および保護者からの評価がいずれも指標を満たしている状況ですが、毎日毎日の地道かつ真摯な取り組みこそが大切な事柄ゆえ、これからも生徒および保護者との信頼関係を維持し、評価が下がることのないよう、努めていきます。</p> <p>他方、先の「教育の質向上」でも触れたように、今年度も「部活動は勉強時間が確保できるように配慮されているか」についての評価は、高校生とその保護者において指標を充足することができませんでした。高校生においては約 4 割で、また高校生保護者においては約 3 割で高い評価をいただけない状況となっています。他の事項に比べ、改善が急がれるものと位置付けるべき結果となりましたが、今回の結果となった理由については、コロナ禍の影響がほぼなくなり、公式戦やコンクールの機会が増えて部活動の時間そのものも相応に増えていることから、勉学との両立に向けて不安を覚えることもあったのだろうと推測されます。部活動ガイドラインを遵守すると同時に、生徒たちにおける学業とのバランス状況に配慮することによって、「学業第一」のもと、生徒たちにおいて無理なく彩り豊かな学校生活を送ることができるよう、早期に状況改善を進め、納得感を向上させて評価が高まるように努めていきます。</p>
----------------------------	--	---	--	---

3 環境整備力の向上	<p>(1) 施設の充実</p>	<p>ア. 自習室の環境をより良いものとし、生徒たちが自学自習の習慣を身につけられるように図る。</p> <p>イ. 利用しやすい食堂となるように改善を進める。</p>	<p>ア. 「自習室は利用しやすいか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上</p> <p>イ. 「食堂は利用しやすいか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 *高校のみ</p>	<p>□教育環境設備・学校運営</p> <p>トイレ改修工事等をこれまで以上に進めていますが、高校生において「トイレ設備が整備されている」に関して評価が低下しました。改修が漸進的に行われていることもあって各所での設備の違いが小さくはなく、今回の評価結果になったと考えられます。生徒の生活環境としての設備施設の充実化は、計画的かつ全体的な推進が必要とされるべき課題であると捉えられます。今後も、要望の高かった箇所はもとより、教室環境やICT等の教具のさらなる充実化にも努め、新しい時代に求められる教育のありようや快適な学校生活に相応しい状況を作り上げていきます。</p>
	<p>(2) 外部環境への対応</p>	<p>ウ. 通学路の保守をはじめ、災害や不審者から生徒の安全を守るためのさらなる努力を重ねたい。</p> <p>エ. 保護者との連絡を密に行うことを通じて、生徒の学内外における状況を的確に把握し、健全な成長を促す環境形成を図りたい。</p> <p>オ. ホームページ等を通じた発信を強化するとともに、生徒たち自身への訴求力もあるような発信内容の作成を行なって、学内の活性化がさらに図れるように工夫を施したい。</p>	<p>ウ. 「災害や不審者から生徒の身を守ることができるよう配慮している」についての評価が、中学生・中学保護者・高校保護者において、80%以上。</p> <p>エ. 「家庭への連絡は適切に行われている」についての評価が、全評価枠において80%以上</p> <p>オ. 「ホームページや広報誌は学園の取り組みを知るのに役立っている」についての評価が、高校生以外のすべての評価枠において80%以上。</p>	<p>食堂の利便性については、コロナ禍による座席数の減などにより充実化の図りにくい状況でしたが、さまざまな制限が緩和されてきましたので、今後は座席配置などでの工夫によって、より多くの生徒に利用してもらいやすいようにしていきます。食堂が生徒たちにとってよりいっそう心の和む空間となるよう、メニューのバラエティも含め、積極的な食育施策を促進します。</p> <p>また「情報公開」については、デジタル分野でのさらなる充実化が求められています。Instagramの活用状況などをより周知するとともに、高校生にも発信機会を持たせるために用意したウェブ媒体の利用を呼びかける等で理解を深めてもらい、より良い発信に繋げるようにします。</p> <p>そして安全面については、通学路・敷地内ともに対策のさらなる強化を図り、生徒が安心して成長していけるキャンパスとして、安全確保を確実かつ迅速に進めていきます。地球温暖化による災害の激甚化についても意識を高め、専門機関による敷地・建物の定期点検を行うことに加え、敷地内の地質データの定期的な収集など予防の観点からの管理・対策もいっそう進めて、中学生を除き、高評価が90%に達していない状況を改善し、評価結果をさらに高めることができるようにします。</p>
<p>(3) 情報の共有化と発信力の促進</p>				